

FD ニュース



令和3年度第1回FD講演会（ハイブリッド形式で開催）

【TOPICS】

- ★授業評価アンケート結果をもとに
次年度に向けた「授業改善計画報告書」作成へ
- ★今年で9回目を迎える
「日本大学学生FD CHAmmiT(ちゃみっと)」
テーマはアフターコロナ～IT化と大学教育～

FD委員会ではFDニュースを通して、より多くの教員と学生に本学のFD活動や教員の教育に対する考えをひろめることにより、本学部の教育環境改善に役立てば幸いです。

目次

- [表紙（1ページ）](#)
- [FD講演会実施について（1ページ）](#)
- [授業評価アンケート実施について（2ページ）](#)
- [FDChammiT実施について（2ページ）](#)
- [語学授業オンライン交流会について（3ページ）](#)
- [FD委員会より（3ページ）](#)

ご挨拶

令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症の関係で、授業形態が対面からオンラインへと大きく変わりました。この2年間で、教員・学生共に戸惑いつつもオンラインでの授業改善が図られ、現在では定着しつつあります。効果的な学修方法として、今後も有効活用が期待されております。本学部における今年度の取組みとして教学IRに関する講演会や大学院初の単独FD講演会が実施されました。また授業評価アンケートとその結果に基づく次年度に向けた「授業改善計画書」の作成も初めて行います。

一方で、学生が主体となって運営する「学生FDCHAmmiT」もオンライン形式で開催されました。今回は、昨年度よりも内容が濃く、より具体的な「学部提案書」が作成されました。提案書に基づき、本学部で改善ミーティングをオンライン開催し、参加した教職員と学生とが活発な討論を行い、授業改善報告書も完成しました。今回発行されますFDニュースを通じて、本学のFD活動や教員の教育に対する考えの理解を深め、教育環境改善の一助になればと願っています。

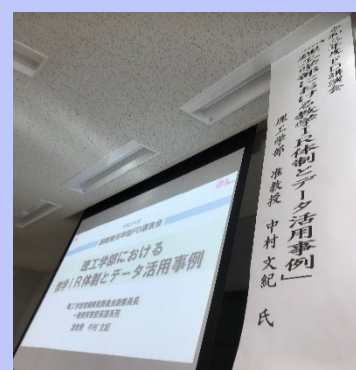
FD委員会委員長 蓼沼智行

令和3年度FD講演会

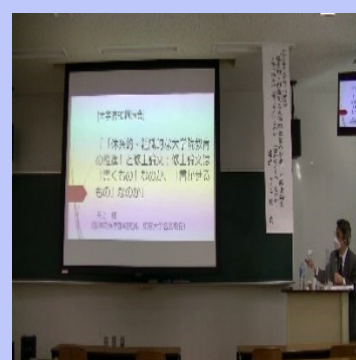
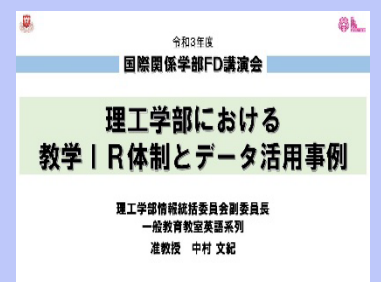
今年度より大学院国際関係研究科によるFD講演会も実施！

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（平成30年11月26日中央教育審議会）において、学修者本位の教育へ転換を図るとともに、各大学が教育成果や教学に係る取組状況等の大学教育の質に関する情報を把握・公表していくことの重要性が指摘され、試行段階ではありますが、「全国学生調査」が開始されました。本学においては、全学生を対象とした「日本大学学修満足度調査」を平成30年度より実施しており、本学における質保証の取組を検証する教学IRの一環として、そのエビデンスとなることが期待されています。そこで、本学の内部質保証の実質化を図るため、教学IRに関する理解を深め、その推進を図ることを目的とし、令和3年11月18日（木）に日本大学理工学部准教授中村文紀氏をお招きし、「理工学部における教学IR体制とデータ活用事例」を演題として講演いただきました。当日は、理工学部生の入試区分別での学力分析や本学部のTOEICの平均スコア等に触れた講演となり、本学部でもIRの必要性を大いに実感しました。また、令和3年11月25日（木）には大学院国際関係研究科FD講演会を開催しました。本研究科講師であり、東京大学名誉教授の井上健氏をお招きし、「体系的・組織的な大学院教育の推進」と修士論文：修士論文は「書くもの」なのか、「書かせるもの」なのかを演題として講演いただきました。修士論文は今や、①修士論文とは完全に「書かせるべきもの」に転じたこと、②研究者育成については言うに及ばず、確固たる基礎学力と高度な専門知識を兼ね備えた人材の養成のためにも充実した修士論文を「書かせる」課程が不可欠であること、③修士論文の「書かせ」方について再検討し、担当教員間の基本認識を一致させておく必要があることの3点について、「体系的・組織的な大学院教育の推進と学生の質の保証」にも関連させつつ、他大学の現状等も交え講演いただきました。

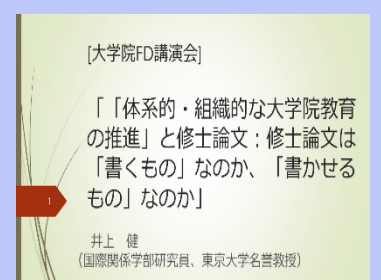
～当日のFD講演会の様子～



理工学部の実例にしたIR分析の必要性を講演（中村氏）



修士論文は、「書くものか」、「書かせるものか」時代を背景に講演（井上氏）

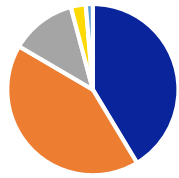


前学期授業評価アンケート集計結果

■5強く思う ■4そう思う ■3どちらでもない
■2そう思わない ■1全く思わない



授業時間外の学修(内容, 方法等)について, 担当教員から具体的(シラバスに明記を含む)に示されましたか。
平均→4.19(学部), 4.25(短大)



5. 強く思う 41.37% 4. そう思う 42.08%
3. どちらでもない 12.41% 2. そう思わない 2.83%
1. 全く思わない 1.32%

「強く思う」、「そう思う」の回答が全体の8割を占め全学的に見ても平均値が高い結果となりました。

この授業科目の授業を1回受けるに当たり, 授業時間以外で学修(予習, 復習, 課題等)にどのくらい取り組みましたか。
平均→2.69(学部), 2.80(短大)



5. 強く思う 41.37% 4. そう思う 42.08%
3. どちらでもない 12.41% 2. そう思わない 2.83%
1. 全く思わない 1.32%

学生との距離感が近い学部である評価と考えられます。全学的にみても目立つ結果となりました。

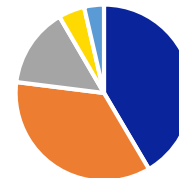
この授業科目に関し, 授業時間外(授業終了直後を含む)に, 担当教員に対し質問等を行いましたか。
平均→3.00(学部), 3.00(短大)



5. 強く思う 41.37% 4. そう思う 42.08%
3. どちらでもない 12.41% 2. そう思わない 2.83%
1. 全く思わない 1.32%

学生が予習・復習等に取り組むような授業改善が求められる結果となりました。

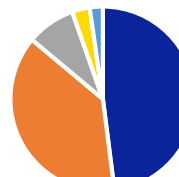
課題(レポート, 小テスト等)に対し, 担当教員から学生へのフィードバック(評価や講評等の開示)はありましたか。
平均→4.06(学部), 4.06(短大)



5. 強く思う 41.37% 4. そう思う 42.08%
3. どちらでもない 12.41% 2. そう思わない 2.83%
1. 全く思わない 1.32%

全学的に平均値が高い結果となりました。この項目からも学生と教員との距離感が近いことが伺えるのではないのでしょうか。

この授業は総合的にみて満足度は高かったですか。
平均→4.26(学部), 4.32(短大)



5. 強く思う 41.37% 4. そう思う 42.08%
3. どちらでもない 12.41% 2. そう思わない 2.83%
1. 全く思わない 1.32%

全学的に平均値が高い結果となりましたが, 次年度はさらに「そう思わない」、「全く思わない」の数値の減少に努めていきたいです。

次年度に向けた授業改善計画報告書の作成が決定!

左記は, 国際関係学部令和3年度前学期学生による授業評価アンケートに係る調査項目集計結果になります。こちらは, 全学共通統一調査項目ですが, 全体的に「授業時間外の学修(内容, 方法等)について, 担当教員から具体的(シラバスに明記を含む)に示されましたか。」の問について平均値が高い結果となりました。また, 短期大学部(三島校舎)のアンケート結果も国際関係学部同様の結果であることがわかりました。先生方に対して, 前学期の学生による授業評価アンケートを科目毎で作成し, 11月中旬に配付しています。後学期の授業評価アンケートについても前学期同様に Google フォームズを利用したオンラインで令和4年1月11日(火)~2月5日(土)に実施しました。集計次第, 後学期分についても担当教員に配布し, 学生の皆さまにも集計結果を公開いたします。なお, 評価結果のフィードバックだけでは十分な活用とはならないため, 自己の授業について教育内容・教育方法の改善充実を図るために次年度に向けた「授業改善計画報告書」の作成を3月下旬に実施することになりました。これは, 内部保証体制の整備の観点からもFD活動を組織的かつ多面的に実施し, 教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげることを目的としています。

日本大学 学生FD CHAmmit 開催

令和3年11月28日(日) オンライン開催



今年で9回目の開催!

本学のより良い教育の在り方を学生, 教職員が話し合う「学生FDCHAmmit」が, 11月28日(日)に日本大学会館で開催され, スタッフ48名が集結しました。同CHAmmitは, 今年で連続9回目となります。昨年オンライン形式で行われております。コロナ禍で学生同士の交流が制限される中, 参加者は日頃から感じている思いをオンライン上で意見交換を行いました。今年のテーマは, 「アフターコロナ~IT化と大学教育~」。緊張を解きほぐすアイスブレイクでは, 「無人島に持っていくなら?」などが話題になりました。全学FD委員会の平山聡司プログラムワーキンググループリーダー(松戸歯学部教授)の講評では, 「昨年より深い洞察, より具体的な提案がなされ, 100点満点のFDCHAmmit」と評価されました。

コアスタッフ代表としてCHAmmitに参加



国際関係学部
国際総合政策学科
竹田蘭丸さん

コロナ禍によるオンライン授業が続く中で, 唯一, 他の学生と繋がることができる場が, この「学生FDChammit」だと思い, 参加しました。昨年提案したオンライン留学プログラムが実現し, さらに拡充に向けて検討されていくなど手応えも感じています。今回のために6月から準備を開始しましたが, 大成功に終わり, 大きな自信になりました。今後も色々なことに挑戦していきたいです。



「学部提案書」に基づく改善ミーティング実施→学生の訴えを反映した授業改善へ

令和2年度学生FDChammitでの学部提案書に対する改善ミーティングを令和3年6月17日(木)にオンラインで実施しました。学生から改善を求められた主な項目は以下のとおりになります。

- ①オンライン授業における教員側のマニュアル作成について
- ②オンライン授業の受講上のルール整備について
- ③教材の購入方法について
- ④オンラインサロンについて
- ⑤他大学の団体や全国規模の外部団体との繋がりについて



積極的な学生からの意見をいただき, 今後の状況により対面授業が再開となったとしても, オンラインのメリットを活かした授業を併用し, 学生の皆さんに寄り添いながら授業改善を図ることを記載した改善報告書を作成し, ホームページ上でも公開しました。



当日のオンラインによるミーティングの様子

不安解消に向けて

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度に続き、令和3年度前学期も原則オンライン授業となりました。学生にとって、オンライン授業での学びをどのように生かしていけばいいのか、どんなことに注意すべきなのか様々な心配を抱えて学生も多くいると思います。また、オンライン授業では、周りの状況がわかりづらく、自分だけが授業を理解できていないのだろうかなどの不安に陥ることも考えられます。今回、このような悩みを抱えている学生が少しでも解決へ導けるように、語学（英語・スペイン語）の「オンライン交流会」を実施しました。先輩から後輩へ貴重なアドバイスが行われました。

先輩も最初は苦戦

アドバイスをしてくれた先輩学生の話には、自らが経験した失敗談が盛り込まれていました。今となっては当たり前に行われているオンライン授業ですが、先輩学生も開始当初多くの悩みを抱え、失敗も繰り返していました。しかし、この失敗経験を無駄にせず、改善を図ったことが、今回素晴らしい後輩学生へのアドバイスになったのではないのでしょうか。

アドバイスの一例

○ネット環境に要注意！→オンラインテスト中、回線が切れてしまった。頑張ってきた成果を無駄にしないために注意。

○モチベーション維持！→目標設定が大切。やる気が出る環境づくりを。

○国内でできることにシフトチェンジ！→オンライン留学で世界中の学生がコロナ禍で苦しめられていることを実感。コロナ収束後の楽しみなども考えて乗り越えよう。

今後の取り組み

第1回目の交流会は、英語とスペイン語の実施となりました。後輩学生にとって非常に有意義な時間となったと思います。また、教職員では中々気付くことができない話もあり、学生との交流の重要性を再認識しました。オンラインでの開催となりましたが、いずれは対面での開催を視野に入れ、第2回目の検討を進めて参ります。コーディネートいただきました角田先生、熊木先生ありがとうございました。



先輩学生が用意したスライド（一例）

語学関連



オンライン交流会開催

先輩から後輩へ伝えたいこと



疑問がたくさん・・・

お答えします！

どうやって学ぶの？

モチベーション維持は？

先生への質問はどうするの？

オンラインだけで大丈夫なの？



先輩のアドバイスで素朴な疑問を解決！



FD 委員会から皆様へ

令和3年度の振り返り

令和3年度FD委員会年次作業計画の報告

① 授業評価アンケート実施について

前学期、後学期ともにGoogleフォームズを利用したオンラインでの授業評価アンケートを実施しました。この集計結果をもとに来年度に向けた授業改善計画報告書の作成が決定しました。

② 授業研究実施について

新任教員7名を対象に、自分が担当する科目に関係した授業を参観し授業研究報告書を作成してもらう計画がありましたが、後学期も一部オンライン授業が継続したことから次年度に再度計画を行う予定です。

③ FD講演会の実施について

今年度は、令和3年11月18日（木）にFD講演会、11月25日（木）に大学院国際関係研究科FD講演会を実施しました。次年度もそれぞれ実施を予定しています。

令和4年度授業実施方針

令和3年度後学期の実施方針を踏襲

新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見込めず、令和3年度後学期の授業実施方針を踏襲したかたちでのスタートとなります。なお、感染状況に鑑み、実施方針を途中で変更させていただく場合があります。

授業改善計画報告書について

学修成果の可視化に向けて

令和3年度の授業評価アンケートをもとに令和4年度に向けた授業改善計画報告書を作成いただきます。原則 対面授業再開により、改善箇所も大きな変化が発生すると考えられますが、ご協力の程よろしく申し上げます。

改善の有無の検証をどのように進めていくかが今後の大きな課題となります。他大学や他学部の事例をもとに学修成果の可視化に向けて検討を進めて参ります。

日本大学FD活動について

日本大学では、FDを「自主創造の理念の下に日本大学を取り巻く外的諸要因をも分析して、学問領域単位（学科・専攻等）での教育プログラムを常に見直し、それを実行するため、教員が職員と協働し、学生の参画を得ながら組織的に取り組む諸活動」と定義しています。FD活動を全学的に推進するため日本大学FD推進センターを設置し、様々な活動をしています。